



<https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

ベーチェット病

版 2016

3.日常生活

3.1お子さんやそのご家族の日常生活にどのような影響を与えますか？

他の慢性疾患と同様に、ベーチェット病はお子さんご家族の日常生活に影響を及ぼします。眼やその他の主要臓器の障害がない軽症例であれば、お子さんご家族は通常の生活を送れます。最も一般的な問題はくり返す口腔内潰瘍で、多くのお子さんにとってわずらわしく感じられるでしょう。口腔内潰瘍の痛みのために思うように飲物を飲んだり食事をしたり出来なくなる場合もあります。眼病変もご家族にとって深刻な問題となり得ます。

3.2学校へ通えますか？

慢性疾患をお持ちのお子さんにとって、継続して教育を受けることは大変重要です。眼やその他の主要臓器の障害がなければ、ベーチェット病を治療中のお子さんは今まで通りに通学できます。視力の低下がある場合には、学校とよく相談する必要があるでしょう。

3.3スポーツはできますか？

皮膚病変あるいは粘膜病変を認めるだけのお子さんは、スポーツを楽しむことができます。関節炎が悪化している間は運動を避けるべきです。ベーチェット病の関節炎は一過性であり、完全に治りますので、関節炎がおさまった後に運動を再開しましょう。しかし、眼や血管に症状を認めるお子さんの場合、その程度に合わせた運動制限が必要になります。下肢に血管病変がある患者さんなら、長時間立ち続けることを控えるべきです。

3.4食事の制限はありますか？

食事に関しては何の制限もありません。一般的に、お子さんは年齢相応のバランスの良い普通の食事をとることが大切です。からだ成長中のお子さんには、十分なタンパク質やカルシウムやビタミン類を含む健康でバランスの良い食事をお勧めします。ステロイドを使用中には食欲が亢進するかも知れませんが、食べすぎは避けるようにすべきでしょう。

3.5気候が病気の経過に影響する可能性がありますか？

気候がベーチェット病に及ぼす影響に関しては不明です。

3.6 予防接種を受けられますか？

お子さんがどの予防接種を受けられるかについては、担当医に決めて頂く必要があります。お子さんが免疫抑制薬（ステロイド，アザチオプリン，シクロスポリン-A，シクロホスファミド，TNF阻害薬 など）で加療されているのであれば，弱毒生ワクチン（風疹，はしか，おたふくかぜ，経口ポリオ*）の接種を避けるべきです。

*日本では現在使用されていません。

生きたウイルスを含まず，病原体のタンパクのみを含む不活化ワクチン（破傷風，ジフテリア，不活化ポリオ，B型肝炎，百日咳，肺炎球菌，ヒブ，髄膜炎菌髄膜炎，インフルエンザ）の接種は可能です。

3.7 性生活は可能でしょうか？ 妊娠や避妊についてはどうすれば良いのでしょうか？

主症状のひとつである陰部潰瘍は，性生活に大きな影響を与える場合があります。陰部潰瘍は再発性で痛みが強く，性交の妨げになる場合があります。女性のベーチェット病は軽症のことが多いので，通常の妊娠を経験することになるでしょう。免疫抑制剤を使用している場合には，避妊を考慮すべきです。患者さんは主治医から避妊や妊娠に関してのアドバイスを受けて下さい。